

Case

13

ヘリなし畳の需要拡大に対応するため、製造ラインの最適化を実現

デザイン性の高いヘリなし畳の人気が高まる中、機械化、省力化を行い若手職人による製造を実現。ベテラン職人は職人技が必要な仕事と提案営業の時間を創出。収益性の向上を目指す。

事業者名：株式会社田中畳店 事業年度：29年度

事業テーマ：ヘリなし畳製造の生産性向上による、若手職人の製造技能向上及びベテラン職人の提案営業人「財」化

企業概要



「良い畳を早く丁寧に」を企業理念とする。創業から百余年その言葉を受け継ぎ、匠の技の研鑽に励む。また、現代の最新大型設備を駆使し、時代のニーズにあった「お客様に喜んでもらえる畳」を作り続ける。現在で四代目、3工場を備える体制で、地域に密着した信頼される畳屋として名高い。

株式会社田中畳店

代表取締役 田中 雅能

1910年

〒250-0311
足柄下郡箱根町湯本
80

19名

1,000万円

0120-88-4449

その他の製造業



WEBサイトへ

取材の現場から

機械化と職人技を生かした経営の方向性は、社長就任から経営力を高め、経営基盤を強固にしてきたからこそ挑戦できる領域でもある。『やればできる。できないのはやらないからだ。真剣にやれば必ずできる』箱根にある魔寺を復元した住職の教えて、言葉に重みがあります」と語る田中社長は四代目として経営戦略を志向する。



▲需要高まるヘリなし畳



▲代表取締役の 田中 雅能氏



▲操作が簡易化された設備



▲導入した自動チップソー裁断機

補助事業のきっかけ

- ・和の情緒を好む外国人観光客の増加によって、和室の存在が見直され旅館やホテルで畳替えが増加傾向にあった。
- ・特にデザイン性の高いヘリなし畳の需要が多く、手作業の機械化、製造能力の拡大、工程全体のスピードアップが必要だった。

事業計画の概要

- ・新規設備として、自動チップソー断裁機、全自動両張り両框(かまち)縫機、全自動両返し縫機を導入した。
- ・ヘリなし畳製造の機械化により生産性が向上。ベテラン職人の作業時間が短縮し、若手職人でも効率的に畳製造ができるようになった。
- ・余力のできたベテラン職人は、畳の保守メンテナンス、顧客への提案営業への配置転換のための教育を実施した。

事業化状況

- ・設備の操作は簡易化され、若手職人でもヘリなし畳の製造ができるようになった。
- ・ベテラン職人で1時間かかっていた作業が、20分程に短縮、生産効率が大幅に向上した。
- ・大手リゾート旅館の改修工事にベテラン職人を同行させることができ、提案営業を開始している。

時代の変遷に合わせた経営

当社は明治43年に箱根町の宮ノ下地区で創業し、富士屋ホテルを始め地元の旅館に畳を納めていました。高度成長期になると住宅需要が拡大し、神奈川県内から千葉、埼玉と商圏を拡大していきましたが、いつしか多忙で薄利多売の事業モデルとなっていました。私は10年前に社長に就任するまでは畳職人でしたが、社長に就任後、経営に参画し会社の現状を数値で見たときに、利益率の低さ、負債の多さなど経営課題が山積だということが分かりました。そこで、この10年で経営管理の仕組み、収益構造の改善に取り組んできました。

補助事業はそのような取り組みの一環です。近年、ヘリなし畳が人気で住宅メーカーや工務店、旅館などからの注文が増えています。ヘリなし畳の特徴は、色、模様などバリエーション豊かでデザイン性があること、などがあります。その反面、通常よりも製造する工程が多い上に、現状の製造ラインがヘリなし畳の製造に完全に対応していませんでした。ベテラン職人の経験、ノウハウに頼る

ことも多く、拡大する需要を取り込むには効率化は必至でした。畳製造設備は汎用性が低く、専用機となるため比較的高額で投資には二の足を踏みますが、ものづくり補助金のおかげで設備投資に踏み込み、製造工程の最適化を実現できました。

機械化と職人技

当社ではヘリなし畳以外にも寺院で使われる特殊な畳の製造も得意としています。これは畳の側面に柄が入るものですが、この柄の形を一定の寸法内に整える部分にベテラン職人の技術が必要になります。他社でもあまり引き受けたがらない仕事ですが、大切にしたい仕事の一つです。この職人技を認められ、曹洞宗の大本山總持寺の御用達畳店に認定されました。本堂で使用する約一千畳の入れ替えも担当しました。

畳業界は、職人の高齢化や後継者不足が顕在化していて、当社の地区でも畳組合の加盟店数は最盛期の32店から19店にまで減少しています。今後も最先端設備で生産性を高めつつ、職人技の必要な伝統的な特殊技術の習得にも励み、経営を強固にしていきたいと考えています。